

登山 月報

JMSCA 登山月報 第674号 令和7年5月15日発行



京都の低山「^{あなごさん}愛宕山 (924m)・^{うしまのやま}牛松山 (636m)」写真撮影 (一社) 京都府山岳連盟 会長 湯浅誠二

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.674

リードジャパンカップ2025 (LJC2025) 開催報告	2
【SKIMO】谷川雪山フェス SKIMO 体験会	4
【SKIMO】第18回SKIMO日本選手権志賀高原大会 開催報告	5
2025年度JMSCA・スポーツクライミング部全国連絡会議	8
2024年度UIAA公認上級夏山リーダー講習会	9
UIAA公認上級夏山リーダー検定会 開催報告	
International Winter Climbing Meet Scotland 2025 報告	10
寄贈図書	10
Enjoy Climbing	11
埼玉県山岳・スポーツクライミング協会自然保護委員会のSDGsな活動	12
JMSCA、表紙のことは	13

リードジャパンカップ2025 (LJC2025)
開催報告



「リードジャパンカップ2025 (LJC2025)」が三重県伊賀市のDMG MORI アリーナで開催された。本施設はJMSCAのスポンサーでもあるDMG森精機株式会社が2023年9月にオープンした施設となっており、ボルダー、リード、スピード3種目のクライミングウォールを完備し、リードウォールは幅16m、高さ14mを超え、観客席も1,500人超と国内でも群を抜いた規模の施設となっている。

【開催概要】

リードジャパンカップ2025 (LJC2025)

期 日 2025年3月1日(土)～3月2日(日)

参加選手数 男子54名、女子53名

※ SJCT2024 JMSCA 優先出場選手(リード)
および SJCT2024 リードランキング上位者

会 場 DMG MORI アリーナ

来 場 者 数 予選 約530名、準決勝・決勝 約1,650名

※選手、スタッフ、メディア、VIPなど含む

【競 技】

■ LJC2025 競技結果

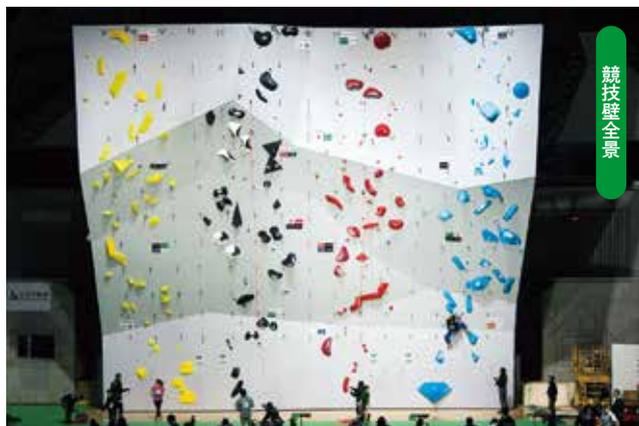
男子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	安楽 宙斗	JSOL	42+
2	鈴木 音生	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	37
3	小俣 史温	日本体育大学	35+

女子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	森 秋彩	茨城県山岳連盟	TOP
2	小武 芽生	エスエスケイフーズ	42+
3	小田 菜摘	大阪府山岳連盟	33

男子決勝では、パリ五輪銀メダリストの安楽宙斗が圧巻の登りで初優勝を果たした。準決勝から首位を維



安楽宙斗



競技壁全景

持し、決勝でも核心を難なく突破して唯一完登間近まで迫る。2位には怪我で1年間公式大会から遠ざかっていた鈴木音生が復活の狼煙をあげ、3位には3連覇がかかっていた小俣 史温が続いた。同じ年のボルダーとリードの両ジャパンカップでの優勝は史上初となる。

続く女子決勝では、小田 菜摘が最大傾斜部でムーブに迷い時間を使うものの、そこから驚異的なスピードで高度をあげると、会場内の空気が豹変し観客のボルテージが一気に最高潮に達した。続く小武 芽生も誰も到達していなかった最終パートで絞り出す1手を続け高度を上げ、トップホールド手前まで到達。最後に登場したのは予選から全ラウンドを完登している森 秋彩。決勝ルートでも落ち着いたクライミングで、最後はトップホールドへのレンジも成功させ、残り約1秒で最後のクイックドロウにロープをかけ完登。6年連続8度目の優勝を決め、場内は大歓声に包まれた。

この大会は、男女ともに日本のトップクライマーたちの世界最高峰のテクニックと精神力が光る熱戦となり、観客を魅了した。

【総 評】

三重県でのジャパンカップ開催は2022年に四日市で開催された第17回ボルダリングジャパンカップ以来3年ぶり2度目となる。当時はコロナ禍ということもあり、無観客ではなかったもののPCR検査などをクリアした観客のみが来場できるという特殊な状況下での開



森秋彩



男子入賞者



女子入賞者

催だった。

本大会はDMG MORI アリーナがオープンして以来、初めての大規模イベントということでどれだけの集客ができるのかが大きな課題であったが、森精機をはじめ、三重県、伊賀市など地元行政などのご協力もあり、想定を大きく超える1,000人以上の観客が会場に集まった。過去38回を数えるリードジャパンカップの歴史の中では群を抜いた観客数を集めることができた。

また、初開催の会場ということでレイアウトや高所作業車の運用などで想定外のことも多く発生し、土壇場で変更するなど、関係各者のご協力があったクリアできた。幸い、今回で多くの課題を確認することができたことで、次回以降改善しより良い大会とすることが出来

ると感じている。

日本ではボルダアの大会に比べて注目度が低くなりがちなリードの大会ではあるが、本大会での観客の熱狂を肌で感じ、今後も森精機をはじめとするご協力のもと、ヨーロッパ各国での大会のような、リードの大会ならではの魅力を発信していく出発点となり得る可能性を感じた。

また、選手はもちろんのこと、運営側も多くの観客の盛り上がりを感じる事が最高のモチベーションとなると再確認することができたことは、改めて全ての関係者に厚く御礼申し上げます。

(副実行委員長 藤枝隆介)



鈴木音生



小武芽生



小俣史温



小田菜摘

SKIMO

谷川雪山フェス SKIMO体験会

2025年4月5日～6日、谷川岳にある「谷川岳ヨッホ by 星野リゾート」(旧・天神平スキー場)にて、第1回「谷川雪山フェス」が開催されました。「雪山をアツくする！～雪山デビューな人も、雪山ベテランの人も夢中になれる2日間～」をテーマに行なわれた本イベントに、雪山登山のギアを扱うメーカーや、地元山岳協会などが出展しました。登山靴やウェアなどを雪上で試せる体験会、ビーコン・スノーシューなどのワークショップが行なわれ、JMCSA SKIMO委員会は「SKIMO体験会」を実施しました。当日は、高倉山エリアのリフトを停めてイベント専用斜面が設けられ、SKIMO体験会もこの斜面を使って行なわれました。

SKIMO委員会では、これまでユースを対象としたアスリート発掘のための体験会を何度か実施してきましたが、幅広い年齢層を対象とした体験会の経験が少なく、集客にやや不安がありました。ホームページ、SNSなどで募集を行ない、2週間前から当日にかけてインターネットで申し込みを受け付けました。なお、5日・6日ともに午前と午後に1回ずつ、計4回の体験会を実施することにしました。

イベント当日、1日目は雲ひとつない快晴となりました。朝、ロープウェイ天神平駅から外へ出ると、雪を冠した美しい谷川岳が目の前にそびえ、天神尾根を登る多くの登山者の姿が見られました。天気の後押しもあってか、イベントにも多くの人が訪れていました。2日目は朝から曇り空で、時折り小雨がパラつくあいにくの天気でしたが、青空が覗くタイミングもあり、イベント実施に大きな影響がなかったのは幸いでした。主催者の報告によると、雪山フェス全体の来場者数は、1日目が542人、2日目が230人で、2日間の延べ人数は772人だったそうです。

SKIMO体験会は、事前申込者は少なめだったものの、当日には事前を上回る数の体験希望者が訪れました。参加者は、2日間で全19名。年齢は13歳～58歳で、20代と50代の方が多いのが特徴でした。予想よりも多くの希望者が訪れて、道具のサイズ合わせなどにやや手間取るシーンもありましたが、4名のスタッフで何とか乗り切り、結果的にすべての希望者を受け入れることができました。

体験会では、SKIMOの用具説明から始まり、バックパックにスキー板を取り付けて走ったり、クライミングスキンを装着して登ったりしました。

雪の斜面を簡単に登れることや、道具の軽さについて、参加者からは驚きの声があがるなど、嬉しい反応をいただきました。斜面を登り切ると、目の前に谷川岳が迫り、大会会場が足元に小さく見えて、達成感も感じてもらえたようです。皆さん「楽しい！」と口々に仰ってください、運営側もやりがいを感じました。

今回の体験会では、スキーで軽快に斜面を登れること、登った先にすばらしい景色が広がっていること、そのようなSKIMOがもつ根源的な喜びを、多くの方に感じてもらうように思います。

体験会以外の時間帯も、ブースには常に多くの人が訪れ、道具に触れるなど興味をもってくださいました。登山、スノーシュー、スキーなど、雪山を取り巻くさまざまなジャンルの方が一同に集うイベントでSKIMOをPRできたことは、SKIMOの普及という面でも大きな成果だったと思います。

出展者のなかにはSKIMOギアを取り扱っているメーカーもあり、SKIMOギアの日本への輸入、販売について意見や状況を聞くことができ、業界内の情報交換ができたことも成果の一つでした。

今後も、このようなイベントに積極的に参加し、SKIMOの普及、そして雪山の活性化につなげていきたいと思います。

(SKIMO広報委員 横尾絢子)



SKIMO

第18回SKIMO日本選手権志賀高原大会 開催報告

去る4月20日(日)、第18回SKIMO日本選手権志賀高原大会が開催された。

種目は2026年ミラノ・コルティナ冬季オリンピックで実施されるスプリント。

高低差70mのコースに、登り、担ぎ、滑走、トランジットを3～4回含み、トップ選手は3分前後で1周する。短いながら駆け引き等もあり、勝敗を左右する大切な要素がふんだんに詰め込まれた種目だ。

場所は長野県の志賀高原・横手山スキー場。日本選手権の開催は初となる。

エントリー数は昨年の白馬大会とほぼ同数の36名、しかし今年の特徴としてユース(18歳以下)のエントリー数が大幅に増えた。これからの日本のSKIMOを担う若い世代が増え、切磋琢磨して成長していく事は非常に喜ばしいことである。高価な道具の購入及び遠征等で出費がかさむ競技でもあり、それに対して親が理解を示し、本人の意欲を尊重して競技に参加させている事には感謝しかない。彼ら彼女らの今後の活躍を見守っていきたいと思う。

今大会は昨年に比ベシニアのエントリー数は減ったが、トップ選手たちが多く参加していた。彼らは、1月に開催されたインディビジュアル種目の日本選手権黒部・宇奈月大会(富山県黒部市)では、ワールドカップ等の国際大会出場のため参加していなかったため、今回の志賀高原大会が名実ともに日本一を決める大会になった。

大会会場は既に閉鎖されたスキー場の一部エリアをお借りした。コース設営に必要な資材はスノーモービルと人力で荷揚げをしたが、アクセスがあまり良くないこともあって、コンパクトな設営をせざるを得なかったのが正直な感想である。



4月18日(金)、快晴の中、平田主幹理事、松澤強化委員長はじめSKIMO委員会のメンバー6名でコース設営を行なった。

翌19日(土)、コースの最終仕上げ。17:00から選手受付の後、開会式。

SKIMO委員会の小田部委員長より開会の宣言、(公社)日本山岳・スポーツライミング協会の蛭田会長より主催者挨拶があり、選手宣誓は地元山ノ内町在住でジュニアカテゴリーの滝澤漣選手が行なった。

開催日の天気予報は数日前より曇り後雨で、競技のスケジュールを短縮するか否かで判断が迷うところではあった。と言うのも、一戦でも多くレースを行ない、若い世代の選手達に、世界で戦うシニアのトップ選手達の技術や姿勢、駆け引きを学んでもらいたかったからだ。

4月20日(日)、天候は前日の快晴から打って変わって、今にも雨が降りそうな雲行きであった。

オリンピック前年の大会ということもあり、報道関係者からの注目度も高く、会場には多くのテレビ局、新聞等のメディアの取材クルーがいる。

36名のエントリー中、出走できない選手が4名おり、全32名で定刻の10:30に予選をスタートした。予選は選手が一人ずつ20秒間隔で出走しタイムを計測、そのタイムにより組み分けして準決勝を行い、準決勝の順位及びタイムによって決勝進出者が決まる。なお、シニア男子以外のカテゴリーにおいては準決勝は行なわれず、即決勝となった。

ジュニア男子(U20)とユース男子(U18)の決勝は混走で行われ、トレランの選手でもあるジュニアの滝澤漣選手がユースの選手にリードを広げて一位でゴール。ユースでは白馬村出身の笹川勇太選手がライバルを寄せ付けず、昨年に続き連覇を飾った。

ユース女子(U18)の決勝は、昨年優勝した田邊美藍選手がゴール前でアクシデントがあったにもかかわらず二位に1分以上の差をつけて、こちらも連覇を果たし



た。

シニア女子決勝は、2連覇中の田中友理恵選手と、今シーズンの国際大会において調子を上げている上田絢加選手との戦いぶりに注目が集まった。

スタート直後、青木聖美選手がリードするが、ダイヤモンドを過ぎた最初のトランジットからは上田選手が先行、田中選手、滝澤空良選手と続く。滑走前の最後のトランジットを先に出たのは上田選手。下りを危なげなく滑り、リードを保ったままゴール。

田中選手の三連覇は阻まれ、上田選手が今シーズンの好調さを見せつける形で日本選手権スプリント初優勝を飾った。

シニア男子決勝は、本命の島選手に国内のトップ選手がどれだけ迫れるかが注目だったが、島選手が終始トップをキープして、危なげなく一位でゴール。見事四連覇を飾った。

二位は遠藤健太選手が入り、ワールドカップ参戦組がワンツーを決めた。

残る代表枠を争って、岡秀行選手が入りかけたが、勢いのある若手の萩原悠己選手がゴール直前で岡選手を0.14秒差で大逆転し、見事に代表の座を射止めた。

各カテゴリーのフラワーセレモニーをゲレンデで行い、天候が悪化する前にすみやかに撤収、志賀高原パレスホテルにて表彰式と閉会式を行った。

ワールドカップ等国际大会に参戦しているトップ選手達が、長いシーズン中に何か国も転戦し、心身ともに疲労しているであろう中、今シーズンの締めくくりとして日本選手権に参戦し圧倒的な力のあるレース展開を見せつけてくれたのは、さすがであり、若い世代にとっても刺激になったであろう。

また、今大会に多くのユース選手が参加し、頑張っている姿や一喜一憂する姿を見ることができたことに、輝かしい光明が見えてきた気がしてならない。

2026年のイタリアミラノ・コルティナ冬季オリンピックはもちろん、2028年の冬季ユースオリンピック、さらには2030年フランスの冬季オリンピック等今後を見据えて若い世代の人材発掘及び育成もシニアの強化とともに重要な課題になってくるだろう。

最後に大会開催にあたり御協力いただいた地元山ノ内町及びスキ場関係者の皆様、ボランティアスタッフの皆様、スポンサー様には心より感謝したい。

(SKIMO委員会 倉橋俊行)

第61回全日本登山大会 兵庫大会のご案内

毎日登山と近代登山の発祥地・六甲山

期日：令和7年10月25日（土）～27日（月）

会場：神戸市：瀬戸内海国立公園六甲山地（再度山・摩耶山・六甲山）



神戸ハーバーランドから見る六甲山地

主 催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
 主 管 兵庫県山岳連盟
 後 援 (予定)環境省・スポーツ庁・兵庫県・神戸市
 公益財団法人兵庫県スポーツ協会
 公益財団法人神戸市スポーツ協会
 一般財団法人神戸観光局

協 力



神戸登山プロジェクト TREK KOBE

摩耶山再生の会（マヤカツ）

神戸愛山協会

神戸市民山の会

2025年度JMSCA・スポーツライミング部全国連絡会議

開催日時：2025年4月6日(日)10:00～15:30

開催場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

「会議室2(3F)」ならびにZOOM

TOKYO2020から早5年、年々変化を遂げているスポーツライミング競技は、2028年開催のロサンゼルス大会では、「正式競技」となることが決まりました(東京、パリの過去2回大会は「追加競技」として採用)。また、これまでの複合種目(2020東京大会:ボルダー、リード、スピードの3種目複合。2024パリ大会:ボルダー&リード、スピード。)から、ついに単種目(ボルダー、リード、スピード)へ変更となることも決定し、選手たちは、より自身の力を発揮できることになり、競技レベルも上がると考えられます。

そんな過渡期の中にいるスポーツライミングですので、競技に伴うルールや制度は常に変動しています。このSC部全国連絡会議は、そのような動きや変化、また現在JMSCAが抱えている問題などを直接、全国の岳連におけるSC担当者のみなさまへ伝え、また、各岳連のみなさまからは、日頃抱えている疑問や不安を直接、担当者へ確認することができる大切な場所です。今回の連絡会議にも、4月初めての日曜日という忙しい時期にも関わらず、45/47都道府県の岳連のみなさま(一部は複数名での参加)に参加いただき、岳連のみなさまにとって、非常に関心が高い場であることを伺い知ることができました。

連絡会議当日は、町田SC部長の挨拶から始まり、続いて原田委員による「選手登録制度と義務研修」に関する説明、望月理事による「財務状況の報告」があり、その後は、SC部各委員会の代表者が、それぞれの委員会が計画している「2025年度活動計画」や「活動内容説明」、また「現在抱えている問題や今後の対策案」などを報告し、都度、質疑応答の時間を設けました。

<各委員会からの主な報告事項>

競技委員会 2025年大会スケジュールならびにジャパンカップおよびユース日本選手権におけるカテゴリー構成について

技術委員会 2025年からのスポーツライミング競技規則について

強化委員会 アスリート育成パスウェイについて

国スポ委員会 2025年国スポ(滋賀)と各ブロック大会と研修について

SC普及委員会 公認競技会の規程変更と体験会実施計画



マーケティング委員会 スポンサーとの調整状況ならびに岩手県山岳協会との「クラウドファンディング」の進捗

SC医科学委員会 RED's(相対的エネルギー欠乏)について

SC指導委員会 2025年度公認コーチならびに主任検定員の養成計画について

SC国際委員会 国際委員会常任委員と現在の国際ポジション状況について

アスリート委員会 委員会やアスリートミーティングにおけるアスリートからの声について

<岳連のみなさまからの主な質問やコメント>

- ・SC指導のカリキュラム内容に関するコメント
- ・SC普及の活動範囲やジャパンツアーの会場選定方法
- ・山岳共済に関するSC部の取組み など

また、冒頭では町田SC部長から、閉幕時には吉田副会長からも謝罪をさせていただいたユース大会の告知遅れに関しては、JMSCA全体の問題なども関わってくることからSC部だけではどうしようもない部分があるが、JMSCA全体で取り組んでいくことが大切な問題であることもお伝えすることができました。

本会議を開催し、準備の時点から全国の岳連関係者の方と接していく中で、刻々と変化していくスポーツライミングに関する情報を伝え、また本当の意味で全国に普及していくためには、JMSCAからの積極的な発信はもとより、全国の岳連からの声を拾い上げる仕組みを作っていくことの大切さを実感しました。まだまだ、模索中ではありますが、より良い関係を築いていくために努力してまいりますので、これからもご協力いただけますと幸いです。

(SC部副部長 栗田 季慎子)

2024年度UIAA公認上級夏山リーダー講習会 UIAA公認上級夏山リーダー検定会 開催報告

UIAA公認上級夏山リーダー講習会

主催：日本山岳・スポーツクライミング協会

主管：兵庫県山岳連盟

開催日時：2025年3月20・22・23日

開催場所：神戸登山研修所・摩耶山周辺・大岩岳周辺

受講者：7名

UIAA公認上級夏山リーダー講習会を関係各位のご協力をいただき開催しました。

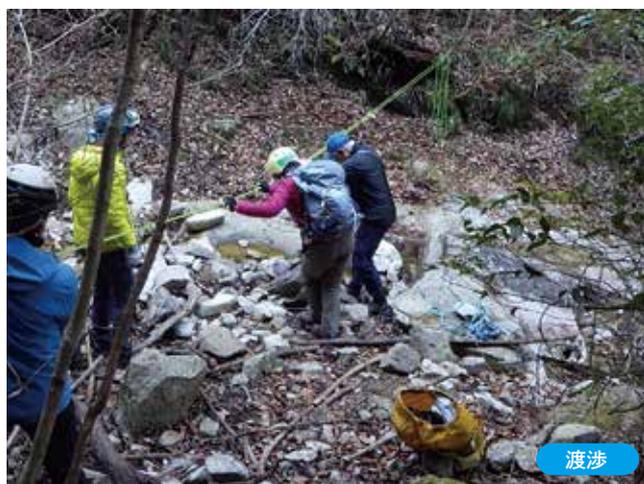
受講生が7名で3班構成として行った。神戸登山研修所をベースにして座学を行いました。実技はロープワーク・夜間ナビは摩耶東谷・山寺尾根周辺で行い、集団ナビは大岩岳周辺で行いました。これから各地で開催されると思いますが、講習会で規定されている講習内容に適した場所をあらかじめ探し出して決定しておく必要があると思いました。

天候にも恵まれ、関係各位のご協力のもと無事に講習会を終えることができました。

御礼申し上げます。



ロープワーク



渡渉

(兵庫県山岳連盟 指導委員長 西村良信)

UIAA公認上級夏山リーダー検定会

主催：日本山岳・スポーツクライミング協会

主管：埼玉県山岳・スポーツクライミング協会

開催日時：2025年3月20・22・23日

開催場所：埼玉県飯能市天覧山、天覚山、天覧山

受講者：9名

UIAA公認上級夏山リーダー検定会を関係各位のご協力をいただき開催しました。

今回は医科学委員会からもドクター4人、看護師2人、救命救急士1人の講師陣を派遣いただき講師陣も蛭田会長はじめ野村、平野、本郷、秋山が行い天気にも恵まれ無事終了いたしました。9人を3チームに分けてそれぞれに講師兼SP(わがままや怖がって工程を阻む役割)を設定し対応も判定に致しました。

初日は登山道で岩場に遭遇し安全に初心者を引率できるか引き上げ、引き下ろし、トラバースの検定を行い実技終了後もよりの公民館で筆記試験実施解散致しました。

二日目は医科学中心に、滑落時の応急措置、捻挫を想定した応急措置、低体温症を想定した応急措置と3か所にドクターに対応頂き検定を実施。

三日目は地図読みを交代で模擬引率検定。増水に対応するため徒渉のロープ操作を検定致しました。想定以上に水かさがあり、ひざ下になるくらいに石を引き詰めて安全対策も考慮致しました。

1年前の講習会から時間もたち、記憶も薄れている中、チームの仲間と互いに研鑽を重ねるうちにははじめは合格も危うい方も見られましたが最後には皆さん成果を発揮できたかと思います。



渡渉



夜間ナビ

(JMCSA指導委員長 野村善弥)

International Winter Climbing Meet Scotland 2025 報告

◆3月1日

エディンバラ空港→Glenmore Lodge
 オープニングセレモニー、説明会

この日は空港でスコットランドクライマーのジェイムスに拾ってもらい、ロッジに向かう。デンマークからのパウとハンガリーからのスザンナも一緒に四人で小さな小型車にダッフルバッグを抱えて乗り込んだ。

◆3月2日

Glenmore Lodge→
 Ben Evis クライミング→Lagangarbh Hut

ルート：Gargoyle Wall

念願の Ben Evis でのクライミング。パートナーのチームにスコットランドの心得を聞くと「とにかく全部ハンマーでたたけ」と言われた。初めてヘキサセントリックを凍ったクラックに叩き込んだ。これをやりに来たのだ。ルート自体は4ピッチと短いが高所に楽しかった。

◆3月3日

Lagangarbh Hut→
 Ben Evis クライミング→Lagangarbh Hut

ルート：Cloud Walker と No.3 Gully Buttres

この日は Ben Evis 以外のエリアが全部冬壁とは呼べないコンディションになってしまったので60人の参加者がほとんどすべてこのエリアに集まった。昨日とは打って変わって氷も草付きもドロドロに溶けて支持力がなく、泥壁クライミングと化す。この日が最後の冬壁クライミングの日となった。パートナーのウィルはロンドン生まれ育ちで、とてもPoshな英国紳士よろしくブリティッシュアクセントでとても感心した。

◆3月4日～3月8日

街で気温14度と明らかにシーズンが終わり山も真っ黒になってしまったので、酒を飲んだりジムで登ったりボルダーしたり海岸でUKトラッドに興じるなどした。



世界各地からやってきたクライマーたちと話をしても、やはり気候変動の影響で今年はどこに行っても温かい冬だったようだった。今年の日本はたくさん雪が降っていていいシーズンだったようなのでみんな羨ましがっていた。気候変動は止められないだろう。

年齢の近いクライマーたちと話すことができとてもいい経験だった。もっと冬壁が登ればなおよかった。スコットランドにはまた帰ってきたい。

日本山岳・スポーツクライミング協会の皆様の支援に感謝します。

(信州大学学士山岳会 永山虎之介)

寄贈図書

中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 299	会報	株山と溪谷社	「山と溪谷」2025年5月号	情報誌
(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No. 564	会報	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.510	会報
株日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2465号、第2466号、第2467号	新聞	おいらく山岳会	「山行手帖」No.785.24. 5	会報
(公財)京都府スポーツ協会	「スポーツ時報」第143号	会報	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」(2025-4 No.61)	情報誌
明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.207	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.102 No.1142	会報
株ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2025 May No.935	情報誌	(公社)日本山岳会	「山」2025年(令和7年)4月号 No.959	会報
三峰山岳会	「岩つばめ」90周年記念誌	寄贈本	Corean Alpine Club	「산(山)」2025年4月号 Vol. 290号	会報
(公社)東京都山岳連盟	#楽しい登山 #安全に登ろう	情報誌	三峰山岳会	「岩つばめ」375号	会報
(公社)東京都山岳連盟	TMF 都岳連通信 2025年1号	会報			

Enjoy Climbing!

Enjoy Alpine Climbing! 連載②

— アルパインクライマーとしての成長 —

鈴木 雄大

そして2022年の夏、僕は初めてのカラコルム遠征へと旅立った。目標は未踏の7000m峰、ガッシャーブルムVIだ。結果的には6000mまでしか登れなかったが、大きなエクスペディションに必要な様々なことを学んだ遠征となった。その一つが、パートナーシップの重要性。当時、僕らはお互いの都合や、各自の登りたい山を優先させ、メンバーの3人でしっかりとトレーニングする時間を取れなかった。僻地で誰か1人が窮地に陥った時に、信頼し合える関係ができてなく、酷い体調不良の仲間をカバーできるほどの関係性が出来上がっていなかった。その遠征はトラブル続きで、飛行機が5日間飛ばなかったり、リエゾンオフィサーとコックが喧嘩したり、隊員が3週間下痢になったり、最後は仲間のクランボンが壊れて敗退した。多くはここには書ききれないが、クランボンがもしも壊れていなかったとしても、G VIは登れていなかっただろう。

それ以降、僕は自身のクライミンググレードや経験値を高める意外にも、遠征パートナーとの登り合わせにも重きを置き、自分のクライミングを多少減らしてでも、パートナーとのビッグアルパインルートに向けた特殊なトレーニングを増やしていった。例えば、ビッグルート特有のトラクションを使った同時登攀や、不快なテラスでのビバークなど。

そこで僕は、大学アルパインクラブの横のつながりで以前からの友人であり、たまたま歳が近く、時間にも比較的余裕のありそうな成田啓と西田由宇をチームに誘い2023年の遠征を計画した。彼らとなら充分なトレーニングの時間も確保できそうだったし、結果として、遠征までに合計30日間ほど山で一緒に過ごすことができた。

そして、私は完璧に未登の登攀対象を探して、ペルーアウサンガテ北壁と、パキスタン ガンバルゾム北西リッジを初登攀した。登攀の詳細はAAJ2024にも寄稿しているので、ここでは割愛するが、多くのクライマーにすでに開拓され尽くされているペルーでも、技術的に困難を伴い(WI6, 5.10a) 満足のいくラインを自由に開拓できたことはアルパインクライミングの楽しさと可能性を改めて実感することとなった。グレードこそハンター北壁よりも劣ってはいるものの、核心部を超えてからも、この先が繋がっているか分からないという未知の酷い稜線を一步一步克服していく事が、相当ストレスだったようで、下山後の疲労感や充実感は、ハンターのそれよりも随分と大きなものだった。AAJの編集者であるPete Takedaも実はこのラインを間近に目にしていたようだが、氷が繋がっているのは5月の本当に短い期間だけで、そのタイミングをちょうど掴んだ事が成功の最大の要因だった。

2023年秋、ペルーから帰って2ヶ月のリフレッシュ期間のあと、僕とKei、そして西田を加えた3人はパキスタン



マッシュルームの迷路を縫うようにリードする鈴木雄大 photo大坪_R

ガンバルゾムVへ遠征に向かった。前述したG VIで、僕はG IIIにトライしていたクライマーのTom Livingstoneに出会い、コヨゾムの話聞いて、このエリアに興味を持った。未踏のガンバルゾムVのベースに着いてみると、当初予定していた北壁がクレバスやセラックの脅威によりトライ不可能であったため、北西稜から山頂を目指すことにした。

この登攀では、見栄えのする大岩壁よりも、複雑な稜線をアルパインスタイルで登ることの方が時には非常にタフで、神経をすり減らされることを学んだ。稜線といっても山自体が非常に大きいので、ロックやミックスクライミングの連続となり、登っている感覚としては壁を登っているようなもの。にもかかわらず、途中で簡単ではないトラバースが入ったり、リッジのせいで見通しが効かないため、壁以上に先を読めないという要素があったり、非常に冒険的な登攀となった。核心部を超えた後も、グレードに表せない往復3kmの青氷の酷い稜線や、ルートファインディング、複雑なギャップなどに苦しみ、登山の総合力を試された。下降もほとんどがクライムダウンやトラバースとなり、最後まで気を抜ける瞬間が全くなかった。そして、この未踏峰の山頂で、僕と成田、西田は、次の格好の目標となるThui2と出会ったのだった。

現代において、良いアルパインクライマーになるには、高難度で多様なジャンルのクライミングスキル、フィジカルが必要なことは間違いない。ただ、もはや言い尽くされ、私が言う事ではないが、アルパインクライミングはスポーツというよりまるでアートのように、オリンピックゴールドメダルのような、誰にでもわかりやすい明確なゴールがない。もちろん強いに越した事はないが、アスリートのな力をいくら鍛えたって、情報がないワイルドでカッコ良い山は見つからないし、ラインを見る目は養われない。それに5.14や5.15を登れたって、ボロボロの5.8を10mのランナウトに耐えられる人はそうそういない。それに雪や氷がつけばとなると…。

僕にとってアルパインクライミングは旅や冒険の延長上にあり、未知を一步一步、クライミングで解き明かす冒険だ。クライミングそのものがギリギリなら、尚のことその冒険は面白くなる。そういった意味でもThui IIには完璧に未踏の西壁が残されており、どこをクライミングして山頂に繋げても、全て私たちの自由。加えて、壁の傾斜も非常に強く、チャレンジングなミックスクライミングを何ピッチも連続できるという、夢のような壁であった。

埼玉県山岳・スポーツクライミング協会自然保護委員会のSDGsな活動

(一社)埼玉県山岳・スポーツクライミング協会(通称SMSCA)自然保護委員会は年に4つのSDGsな活動を行っています。Ⅰ クリーン登山およびトイレ調査、Ⅱ 全国一斉水質調査、Ⅲ 春のカタクリ群落調査、Ⅳ 秋の自然観察会です。

Ⅰ. クリーン登山およびトイレ調査は、「奥武蔵からゴミをなくそう」と1982年から自然保護委員会の主活動として始めてきました。それから40数年が経ち、山のゴミは随分と減ってきましたが、まだまだゴミは皆無ではありません。ゴミ拾いだけがSDGsの活動ではありませんが、ゴミ拾いを第一歩にして「山を自然のままに維持しよう」と将来に繋げていきたいと思っています。クリーン登山は環境月間の6月を中心に各会でクリーン登山日を決め、活動をお願いします。去年は17団体、合計178名の会員に協力頂きました。

Ⅱ. 全国一斉水質調査は、県内5カ所を選び水質調査を継続して行ってきました。この活動は「みずとみどり研究会」が行っている「きれいな水環境を次世代へ引き継ぐ」との目的に賛同し「身近な水環境を調べよう!」と、SMSCA自然保護委員会の活動として5年前に参加を始めました。定点調査のため、今後も毎年同日に調査を続けこの目的の一端を担いたいと考えています。

Ⅲ. 春のカタクリ群落調査は、児玉郡美里町のカタクリ群生地の調査。町が「カタクリ祭り」の幟旗を立てるほど見事な群生地でした。自然保護委員会は、前々からここを大事に見守って行きたいと考え現地確認をしていました。しかしコロナ感染症の拡大で現地確認が出来ない状況が続いていました。一昨年、久

しぶりに現地訪問をしたところ、カタクリが全くと言うほど無くなっていました。そこで、なぜ群落は消えたのか?と昨年から現地確認を再開しました。町役場にも訪問し事情を伺いましたが、原因は分からないとの事。考えられるのは①落ち葉の悪影響、②シカ害などでした。年初に町役場から落ち葉除去実施の連絡を頂き、その後どうなったかと今春現地確認をしたところ、効果がでていないのか若い片葉のカタクリが増えていました。増えてきたカタクリを踏まぬように枯れ木で登山道に簡易柵をしてきました。今後も町役場と連携しながら経過を注視していきたいと思っています。

Ⅳ. 秋の自然観察会は、毎年目的を設定、委員のほか一般参加者を募集し「埼玉の自然を知り、守って行こう」との趣旨で実施しています。去年は秩父蓑山から和銅遺跡まで、ガイドと共に「秋の花」を探し、「カエデの紅葉の仕組み」を知り、「バードウォッチング」をしながら歩き、最後は「和銅採掘遺跡」の探索を行いました。

Ⅴ. 最近、小鹿野町二子山の希少植物キバナコウリンカがなくなっている!との情報があり、県や町に確認をとりましたが「毎年巡回している」との回答でした。自然保護委員会として何か出来ることはないか?これからも情報収集をしていきます。

「奥武蔵からゴミをなくそう」「きれいな水環境を次世代へ」「カタクリ群生地の復興」をスローガンに自然保護委員会は無理せず継続していくと発信していきます。

(埼玉県山岳・スポーツクライミング協会
自然保護委員会 委員長 千葉弓子)



クリーン登山で収集のゴミの山



水質調査中



登山道を枯れ木で簡易柵

- 日時：令和7年4月10日(木)
13:00-16:25
- 場所：JSOSビル3F会議室5及びZoom
- 出席者：蛭田会長、古賀・吉田(15:35～離席)各副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村・町田常務理事、小高・小田部・栗田(14:30～15:30離席)・佐藤・島田・中島・西谷・畑中・樋口・平田・前田・望月・安井各理事 以上20名
佐久間・古屋監事 以上2名
- 欠席：杉本・中橋・濱田各理事 以上3名

1. 開会

2. 蛭田会長からの挨拶

2024年度の収支については、ほぼ、収支とも拮抗している状況と認識していますが、最終決算に向けて、皆さんからの御協力をいただきたくよろしくお願い致します。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中20名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))
監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議題(注.審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について

理事会議事録の承認について(事前送付済)令和6年度14,15,16回理事会議事録について承認されている。

議案第3号 SC関連3社との契約について

町田SC部長が、従来の契約内容との違いを説明した。その後、採決を取り、3社の契約内容について異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成20名

議案第2号 新役員選考について(現状報告)

古賀副会長が4月11日に、対面で役員選考委員会を開催予定であり、公平性を確保した上で5月、遅くとも6月の理事会に上申したい旨説明した。その後、以下のように複数意見が出た。

*総会での新役員承認直後に、新体制での最初の理事会が行われるがその後の運営をスムーズに進めるため(7月10日理事会には、理事毎の役務の提案決定)に、三役、及び理事にどう役務を振り分けるかを含めた人事の方針、手続き案を用意しておいた方が良いのではないかと。

*例えば、常務理事候補くらいは、はじめに決めてほしい。

*これまでの理事会の協議内容をわかるような役員が選考されること、委員会(適所)の役割は明瞭なので、その適所に合わせて人材が任命されることを期待する。

*新役員から会長をどう決めるのかの方針も明確にしてほしい。

*JMCSAの現在の課題は、現理事が取りまとめ、方針をある程度決めることが必要。

古賀副会長が、今回出された意見を加味して、4月11日の役員選考委員会に反映する予定と補足説明した。

議案第4号 選手選考基準について

(ガバナンス委員会に諮る前だが至急ということで議案となった。)

西谷理事が、従来の選考基準との違いを説明した。後日行われるガバナンス委員会での最終見解を加味することを条件として、採決を取り、以下のように異議なく承認された。

SC国際競技大会ユース日本代表選考基準について

反対0名、棄権0名、賛成20名

SC国際競技大会ユースリード・ボルダー強化選手選考基準

反対0名、棄権0名、賛成20名

議案第5号 RED規程の改定

(ガバナンス委員会に諮る前だが至急ということで議案となった。)

西谷理事が、従来規程との違い(規程名の変更と、心拍と血圧の指標が追加)を説明した。また、補正予算の必要性を確認した。後日行われるガバナンス委員会での最終見解を加味することを条件として、採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権1名(望月理事)、賛成19名

7. 報告

報告第1号 月次報告、決算状況、キャッシュフロー

赤尾事務局長が3月末時点の収入と、支出の現状(途中報告)を説明した。現時点の数値は、3月末までに発生した入出金に伴う分の結果であるが、以下の3つ情報が未反映なので、あくまで参考値としてほしいと強調した。

- 一未払金(3月末までに事業を執行したが、支払い処理をしていないもの)
- 一未収金(上部団体からの精算補助金額、他団体からの未振り込み分等)
- 一決算処理(消費税支払い、減価償却費計上、引当金計上、など)

また、キャッシュフローについては、3月度に、銀行やその他からの追加借入、共済会からの前倒しなどにより、4月度初として、7200万円現金がある。

今後、4-6月にかけて、前述の未払、未収金が発生する。また、想定と異なる事態(令和7年度JOCからの強化費減)が発生したので、6,7月に2-3月に行った追加借入金の返済をすることで、前回の計算から資金繰りがかわることを補足説明した。

上部団体(JOC,JSC)の令和7年度補助金額が明確になった時点で、現行予算から、事業規模の見直しが必要なことを伝えた。

また、SC強化で4-5月に予定している3大会への選手派遣の予算執行

は、当初予算の想定をベースにした執行とするが、その後の大会については、令和7年度で決定した補助金に基づいた補正予算を策定することを条件とすることになった。

報告第2号 財政再建計画について

小田部理事が、画面から、組織と収支管理の見直しの一案としてカンパニー制(事業部制)の紹介をした。複数の意見が出たが、当件について、小田部理事が財政再建委員会に加わり、一つのワーキンググループとして検討を進めることになった。

報告第3号 委員会常任委員について

小野寺専務理事が、クライミング普及委員会、国スポ委員会、技術委員会(セッターのみ)の委員の変更内容を説明し、常務理事

会で承認されたことを伝達した。

報告第4号 共済会からの報告について

望月理事が、画面からA社から提携の申し入れがあり、共済委員会を検討してきた概要を報告。1年毎の契約更新という条件をつけ、提携を結ぶ方向で協議していくこととし、提携文書が正式に決まったら理事会に上程し決議とする予定。

また、日山協山岳共済会加入状況やスマホで加入しやすくなったことを報告。

報告第5号 登山部報告について(口頭)

野村登山部長が、登山部として以下の2点を報告した。

- 1.「そうよ そうなの遭難よ」については、再開することは難しく、今期はやらないことになった。
2. オリエンテーリング協会からの外部理事招請について

書類提出済で結果待ちの状況であることを伝えた。

報告第6号 全日兵庫大会について

古賀副会長が、チラシ作成が完了したので、月報に掲載予定。各岳連への配布は、負担にならないような枚数を検討することを伝達した。補助金の岳連への支払い時期は、4,5月の補助金概算払分の入金以降が望ましい。

報告第7号 「百万人の山と自然」後援名義について

小野寺専務理事が、例年行われている標記後援名義申請が、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第8号 A級、C級審判資格審査結果について

小野寺専務理事が、当結果を紹介し、常務理事会で承認されたことを伝達した(C級及び、A級合格者)

望月理事が、C級試験に落ちた人(関東は合格率6割)が復活できるような救済策の検討をお願いしたいという要望を出し、検定担当者に伝える事になった。

報告第9号 IFSC次期会長/副会長候補者について

小野寺専務理事が、会長が2名立候補していること、副会長として男性2名、女性2名の枠に小日向氏が立候補していること、JMCSAのとりまとめ(全権)として、水村氏が担当していることを伝達した。

報告第10号 令和7年度総会向け総括・決算等報告準備について(口頭)

令和6年度の総括と決算を行う。5月の理事会で議案を提案予定。

8. その他

*小田部理事が、岩手クラファン事業の状況報告と、事業への理事の参加、SNS JMCSA Officialで「いいね」をぜひ押し欲しい(1回・1名)との要請をした。

*次回SCオリンピック種目について、ボルダー、リード、スピードの3種目となり、参加者数は、68名から76名(3種目)となることを報告した(安井理事)。

*JMCSAフレンドの今後の運用について、4月17日に、今後の展開について内部会議を行うので、その結果をうけて、全国への案内文の作成と結果を全国に流す予定(蛭田会長)。

以上

令和7年4月10日

記録 赤尾浩一



表紙のことば



京都の低山「愛宕山(924m)・牛松山(636m)」

京都には1000m以上の山はないが、愛宕・牛松は山頂に大きな社を構え、市街地に近いため多くの登山者に慕われている。愛宕山は山頂に、全国約900社の火伏の神様、「愛宕神社」の本社があり、「京の子供は、3歳までに登れば一生、火難にあわない」と言われ、親の背中に背負われ、ウトウトしながら登る姿をよく見かける。一方、牛松山には水運の神様「金比羅さん」が祀られ、保津川(桂川)で、丹波の物産を京へ運ぶ筏(いかだ)師に崇められていた。現在筏は、平底の船に変わり、天下の名勝「保津川下り」として、多くの観光客を迎え入れている。

(一社) 京都府山岳連盟 会長 湯浅誠二

編集後記

奥多摩の川苔山の登山口にて、安全登山キャンペーンに参加しました。官公庁との合同開催で、警察・消防・環境省・都岳連含む33名が参加し、パンフレット、地図、アミノバイタル、ポケットティッシュ等を登山者に配布しました。アミノバイタルの効果は高く、170名を超える方々が受け取りました。味の素様のご協力に心より感謝申し上げます。全体の約7割以上がオンラインで登山届を提出しており、安全登山への意識の高まりを感じました。訪日外国人の登山者も多く見受けられ、国際的な広がりを感じた貴重な機会となりました。

(松本光顕)

登山月報 第674号	
定価	110円(送料別)
予約年間	3,000円(送料共)
	(毎月1回15日発行)
発行日	令和7年5月15日
発行者	東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 905 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
電話	03-5843-1631
FAX	03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

6月号
販売中

【特集】東北の山② 山形・宮城・福島

メンバーのウェブサイト、全国のメンバーストアや書店にて販売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

限定デザイン

岳人
カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
メンバーストア
でも受付中!

お問い合わせ
メンバーポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2023年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2024年6月13日)

発生件数	3,126件 (前年対比 111件増)
遭難者数	3,568人 (前年対比 62人増)
死者・行方不明者	335人 (前年対比 8人増)

